

注意報

注意報

注意報

注意報

注意報

6 3 6 1 - 1 1 4 0  
平成 2 2 年 7 月 2 6 日

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成 2 2 年度病害虫発生予察注意報第 1 号について

平成 2 2 年度病害虫発生予察注意報第 1 号を発表したので送付します。

## 平成 2 2 年度病害虫発生予察注意報第 1 号

平成 2 2 年 7 月 2 6 日  
宮 崎 県

病害虫名 海外飛来性害虫  
作物名 普通期水稻

1 . 発生地域 県内全域

2 . 発生程度 トビイロウンカ 多  
セジロウンカ やや多  
コブノメイガ 多

### 3 . 発生状況と注意報の根拠

#### 1 ) トビイロウンカ

- (1)7月中旬の巡回調査における発生面積率は4.8% ( 平年4.0% ) で平年よりやや多、20回すくい取り虫数は0.05頭 ( 平年0.00頭 ) で平年より多である。
- (2)過去10年では、発生面積率は平成18年、19年に次いで3番目に多く、20回すくい取り虫数は過去10年で最も多い。
- (3)県内予察灯では、6月第4半旬と7月第3半旬に飛来が確認されている。

#### 2 ) セジロウンカ

- (1)7月中旬の巡回調査における発生面積率は90.5% ( 平年73.8% ) 、20回振虫数は65.8頭 ( 平年27.6頭 ) で平年よりやや多である。
- (2)県内予察灯では、5月第5半旬に初飛来が確認され、その後断続的に飛来が確認されている。
- (3)一部飼料稲ほ場において、坪枯れ症状も確認された。

#### 3 ) コブノメイガ

- (1)7月中旬の巡回調査における発生面積率は61.9% ( 平年 20.7% ) で平年よりも多、被害株率は14.2% ( 平年 4.4% ) 、被害葉率は1.1% ( 平年 0.3% ) でいずれも平年よりやや多である。
- (2)過去10年では、平成15年について2番目に多い発生面積率である。
- (3)ライトトラップでは都城市で6月第6半旬に13頭 ( 平年同期13.9頭 ) 、えびの市で6月第5半旬に4頭 ( 平年1.9頭 ) のややまとまった飛来が確認されている。

#### 4 ) その他

向こう1ヶ月の予報では、気温は高い確率 6 0 % と予想されており、上記病害虫の増殖に好適な状況が続くと考えられる。( 鹿児島地方气象台7/23発表 )

### 4 . 防除上の注意

#### 1 ) トビイロウンカ

- (1)トビイロウンカは低密度に見えても、増殖率が高く、株元に集中して加害し、秋には高密度となって坪枯れを引き起こす。ほ場の分布は局部的であるので、ほ場全体の発生状況を的確に把握し、防除を徹底する。  
( 要防除水準 : 8月上旬の短翅型雌成虫 株当たり0.2頭 )

- (2)トビイロウンカの防除適期は8月第1~2半旬 ( 6月第4半旬飛来・第2世代幼虫期 ) 及び7月第6半旬~8月第1半旬 ( 7月第3半旬飛来・第1世代幼虫期 ) と予想される。地域

やほ場により発生状況が異なることがあるので、ほ場の発生状況を確認した上で防除を行う。

(3)本虫は株元に生息するので、農薬が株元に十分到達するように散布する。

## 2) セジロウンカ

(1)飛来量が多いので、箱施薬剤を使用しているほ場でも発生に十分注意する。

## 3) コブノメイガ

(1)コブノメイガの防除適期は7月第6半旬～8月第1半旬（第1世代発蛾最盛期：粒剤）及び8月第1～3半旬（第2世代若齢幼虫期：散布剤）と予想される。地域やほ場により発生状況が異なることがあるので、ほ場の発生状況を確認した上で防除を行う。

(2)コブノメイガは出穂前の上位葉の被害により、玄米の充実に及ぼす影響が大きいので防除を徹底する。

## 4) その他

(1)飼料稲として栽培されるインディカ品種（ミナミユタカ、モーれつ等）では、セジロウンカが増殖しやすく、被害を受けやすいので、発生を確認しながら適宜防除を行う。

(2)防除薬剤等その他の詳細については、各農林振興局・西臼杵支庁（農業改良普及センター）、病害虫防除・肥料検査センター等の関係機関に照会すること。

(3)なお、ポジティブリスト制度の施行に伴い、農薬の使用については今まで以上に厳重な注意を払うとともに農薬使用基準を遵守し危害防止に努める。また、周辺作物の栽培状況等に留意し、地域全体で農薬のドリフト防止に努める。

連絡先 宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 中村正和 TEL:0985-73-6670 FAX:0985-73-7499
--